

今こそ「持続可能な学校」を求める特別決議

「学校の大ピンチ」を救う方策の実現を求める署名」は、子どもの学習権を十分保障できない、教職員のいのちと健康が守られていない学校を、早急に変えるべきだとの組合員や保護者、働くなかまや地域の方々の思いが70万筆となって集約された。

3月13日、日教組は、この多くの思いや願いがこもった署名を中教審・文科大臣に提出した。その際、子どもたちのゆたかな学びを保障し、だれもが安心して働き続けられる職場にむけて、勤務時間内に完結する働き方など持続可能な学校のための働き方改革の一日も早い実現を改めて訴えた。引き続き、子どもたちの教育を守る賛同者の輪をさらに広げ、とりくみを強固にしていく。

今の学校現場の状態をこれ以上放置すれば、精神疾患による休職者や職場を離れる教職員の更なる増加を生じさせ、教職員の未配置など、学校はますますピンチに追いやられる。子どもの学ぶ権利は侵害され続け、教職員のいのちと健康はさらに窮地に追い込まれる。

しかし、中教審「質の高い教師の確保」特別部会は、業務削減、教職員定数の改善、給特法の廃止・抜本的見直し等について、私たちが求める議論には必ずしもなっていない。このままでは、現場が実感できる働き方改革にはつながらない。教職をめざす学生、そして現場の教職員が切に求めているのは長時間労働の是正である。

中教審特別部会は、まとめの段階に入った。今後、議論の場は国会に移る。学校の働き方改革はまさに正念場に来ている。署名のとりくみは、組合員一人ひとりが参画し、仲間を増やし、自ら学校環境の改善を求めるといふ決意の表れであり、組織の底力が示された。日教組は、持続可能な学校を求め、組織の総力を挙げ、業務削減、教職員定数改善、給特法の廃止・抜本的見直しにむけ、不退転の決意でとりくむ。安心・安全な学校が実現されるまで声を上げ続けよう。

以上決議する。

2024年3月14日
日本教職員組合第113回臨時大会